
2019年2月期 第2四半期決算説明会



2018年10月12日



**1. 2019年2月期第2四半期業績
(2018年度)**

2. 高島屋グループ成長戦略と進捗

3. 2019年2月期計画
(2018年度)

連結業績

- 営業収益は国内百貨店と空港型免税店が牽引し増収・計画超過
- 営業利益は先行投資等により減益も計画超過
- 経常増益は受取配当金増・為替差益増等により増益・計画超過
- 純利益は特別損益悪化により減益も計画超過

(単位：億円)	上期業績	前年比		計画比*	
営業収益	4,415	+ 82	+1.9%	+ 25	+0.6%
販売管理費	1,245	+ 31	+2.6%	△8	△0.6%
営業利益	134	△5	△3.4%	+ 14	+11.8%
経常利益	161	+ 5	+3.1%	+ 21	+15.2%
純利益	88	△2	△2.5%	+ 25	+39.4%

*計画比は2018年4月9日公表値との比較

国内百貨店業績

- 営業収益は好調なインバウンド売上と堅調な国内消費により増収および計画超過
- 販売管理費は先行投資や変動費増等はあるものの計画から良化
- 増収により営業利益・経常利益・純利益は減益も計画超過

(単位：億円)	上期業績	前年比	計画比*
営業収益	3,777	+ 35 +0.9%	+ 33 +0.9%
売上高	3,709	+ 35 +0.9%	+ 34 +0.9%
商品利益率	24.16%	+0.03	+0.09
販売管理費	921	+ 12 +1.3%	△3 △0.3%
営業利益	44	△2 △4.1%	+ 14 +45.7%
経常利益	72	△3 △3.8%	+ 20 +39.0%
純利益	37	△9 △18.9%	+ 24 +181.1%

*計画比は2018年4月9日公表値との比較

国内百貨店販売管理費

- 人件費は子会社人員吸収などによる負担増も計画良化
- 宣伝費、総務費・庶務費は日本橋高島屋S.C.開業等の先行投資、増収による変動費増、運送費増等により前年比で増額、計画超過
- 経理費は新宿店底地取得による支払家賃減により削減・計画良化

(単位：億円)	上期業績	前年比		計画比*	
人件費	305	+ 4	+1.5%	△ 8	△2.5%
宣伝費	126	+ 3	+2.3%	+ 0	+0.3%
総務費・庶務費	341	+ 11	+3.4%	+ 5	+1.4%
経理費	148	△ 7	△4.4%	△ 0	△0.1%
合計	921	+ 12	+1.3%	△ 3	△0.3%

主要子会社業績（国内）

- 東神開発は、日本橋高島屋S.C.東館開業などにより増収も先行投資費用増により減益
- 高島屋クレジットは、外部手数料などが順調に伸び増収増益
- 高島屋スペースクリエイツは、受注は伸ばしたものの、競合激化による利益率低下の影響が大きく増収減益

(単位：億円)	営業収益	前年比	計画比*	営業利益	前年比	計画比*
東神開発	210	+ 8 +4.0%	△10 △4.6%	36	△4 △9.3%	+ 1 +3.1%
高島屋クレジット	95	+ 4 +4.1%	+ 0 +0.4%	24	+ 2 +7.9%	+ 1 +2.5%
高島屋スペースクリエイツ (高島屋スペースクリエイツ東北含む)	158	+ 8 +5.5%	△3 △1.9%	4	△3 △40.2%	△3 △40.3%

*計画比は2018年4月9日公表値との比較

主要子会社業績（海外）

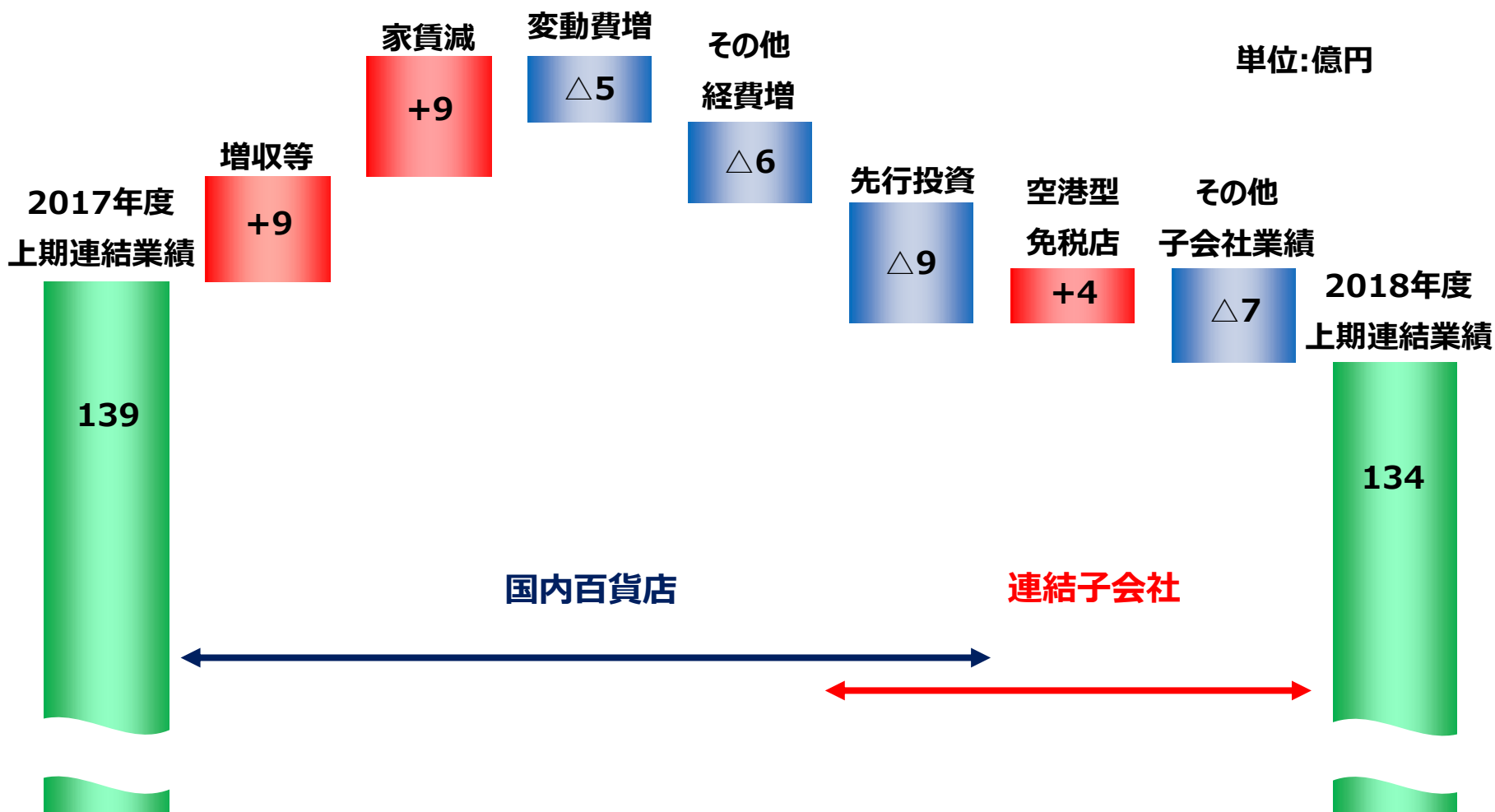
- タカシマヤ シンガポールは、開業25周年記念施策等により増収増益
- TDSは増収も、一部テナントの契約更改等で営業利益は前年並み
- 上海高島屋・タカシマヤベトナムは、業績改善が継続

(単位：億円)	営業収益	前年比	計画比*	営業利益	前年比	計画比*
タカシマヤ シンガポール	86	+ 3 +3.7%	△0 △0.6%	14	+ 0.8 +5.7%	△0.0 △0.2%
(現地通貨ベース)	106百万	+ 2.1百万	△0.7百万	18百万	+ 0.7百万	△0.0百万
トーシンディベロップメント シンガポール (TDS)	45	+ 0 +0.8%	△1 △1.4%	12	△0.1 △1.0%	△0.2 △1.8%
(現地通貨ベース)	55百万	△0.5百万	△0.8百万	14百万	△0.4百万	△0.3百万
総売上	51	+ 4	△3			
上海高島屋	16	+ 1 +6.4%	△1 △7.3%	△ 4	+ 1.4 -	△0.0 -
(現地通貨ベース)	97百万	+ 2百万	△7百万	△25百万	+ 10百万	△0.2百万
タカシマヤ ベトナム	8	+ 1 +17.4%	+ 1 +10.8%	△ 1	+ 0.7 -	+ 0.7 -
(現地通貨ベース)	1,724億	+286億	+201億	△145億	+150億	+134億

為替レート：1SGD=81.54JPY 1CNY=17.00JPY 1VND=0.0047JPY

総売上：上海高島屋とテナント売上の合計 *計画比は2018年4月9日公表値との比較

連結営業利益業績増減要因





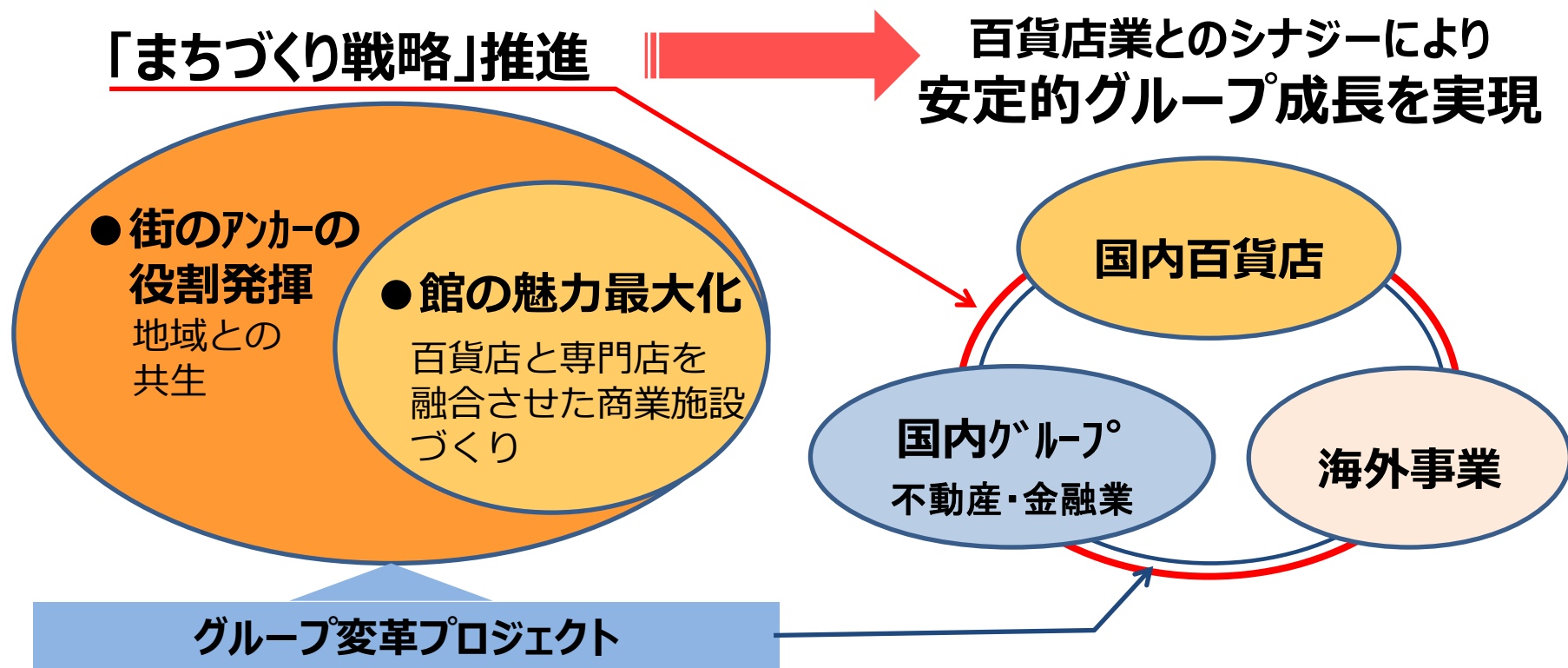
1. 2019年2月期第2四半期業績
(2018年度)

2. **高島屋グループ成長戦略と進捗**

3. 2019年2月期計画
(2018年度)

高島屋グループ成長戦略

グループ総合「まちづくり戦略」推進、安定的成長を実現
地域と共生し、グループ力を結集した独自の商業施設づくりを実現



日本橋高島屋S.C.（まちづくり戦略）

9/25日本橋高島屋S.C.開業、来年3月グランドオープン

- ✓ まちづくり戦略の新たな象徴であり、次世代百貨店のリード役
- ✓ 百貨店と専門店を融合した4館体制でスタート
- ✓ 専門店独自の提案力や世界観でお客様ニーズに幅広く対応



日本橋高島屋S.C.新館（手前）、本館（奥）



「365日と日本橋」



「リバー」

日本橋高島屋S.C. (まちづくり戦略)

百貨店と専門店の強みを融合しお客様ニーズに幅広く対応

- ✓ 百貨店が得意な編集力やサービスを生かした売場づくり
- ✓ 新館オープンを契機に幅広い層のお客様づくりを推進
- ✓ フラグシップストアの取り組みをモデルに、まちづくり戦略を進化



新たなビューティー編集売場
「ベルサンパティック」



地域最大級の婦人靴売場「シューワールド」

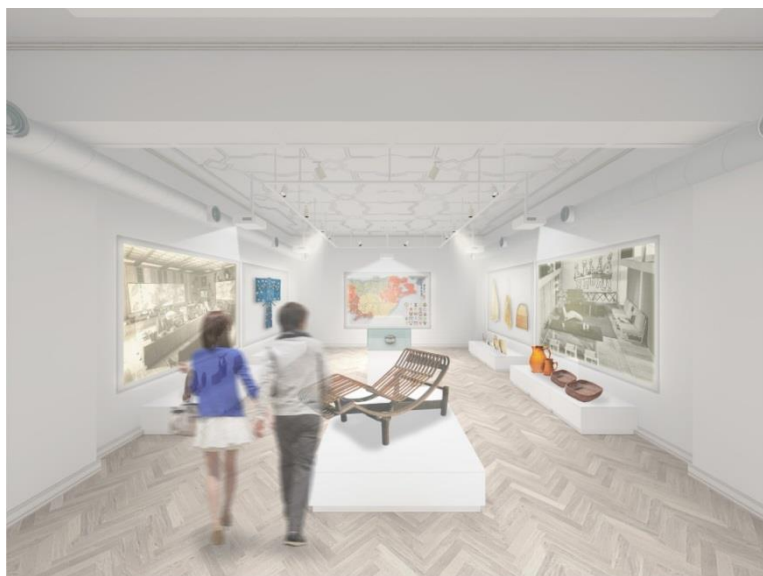


タカシマヤアプリ

日本橋高島屋S.C.（まちづくり戦略）

2019年3月、本館改装が完了し、 いよいよ日本橋高島屋S.C.グランドオープン

- ✓ 大阪に次ぎ、文化発信拠点「高島屋史料館TOKYO」オープン
- ✓ 新たな車寄せ、屋上庭園の完成により、心地良い買物空間実現



「高島屋史料館TOKYO」（展示スペース）



屋上庭園

サイアム高島屋（ASEAN戦略）

サイアム高島屋がICONSIAMの核テナントとして 11月10日オープン

- ✓ 現地有力企業サイアム・ピワット社を事業パートナーにタイ初出店
- ✓ 初年度※目標は、総売上高130億円 ※開業一年間
- ✓ 次年度から黒字化を計画



ICONSIAM全景

4階	リビング	キッズ	レストラン
3階	紳士服	紳士雑貨	カフェ
2階	ハンドバッグ	婦人靴	時計
1階	婦人服	ランジェリー	カフェ
M階	化粧品		カフェ
UG	和洋菓子	北海道 どさんこ プラザ	コンセプト ショップ
G階	フードコート	スーベニア ショップ	スーパー

サイアム高島屋フロア構成

サイアム高島屋（ASEAN戦略）

25周年を迎えるシンガポール高島屋S.C.を拠点とした戦略展開

- ✓ シンガポールの経営資源を最大限活用
- ✓ 現地有力企業とのパートナーシップ戦略
- ✓ 百貨店・不動産・施設運営による三位一体の事業戦略推進

サイアム高島屋
11月10日開業



上海高島屋

サイゴンセンター
ホーチミン高島屋

シンガポール高島屋S.C.
開業25周年

東神開発（不動産業）

次世代百貨店を形成すべく、まちづくり戦略を推進

- ✓ 国内では、日本橋高島屋S.C.新館、こかげテラスなど新規開業
- ✓ 海外では、シンガポール高島屋S.C.が25周年を迎え
ベトナム事業と併せて海外基盤をさらに盤石化



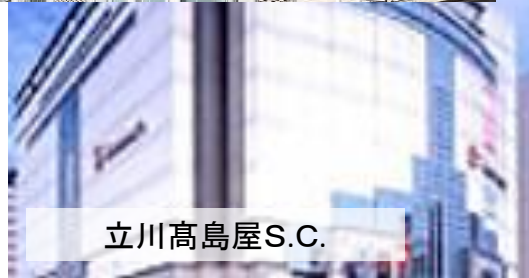
日本橋高島屋S.C.新館



流山おおたかの森S.C.



シンガポール高島屋S.C.



立川高島屋S.C.



こかげテラス



サイゴンセンター・ホーチミン高島屋

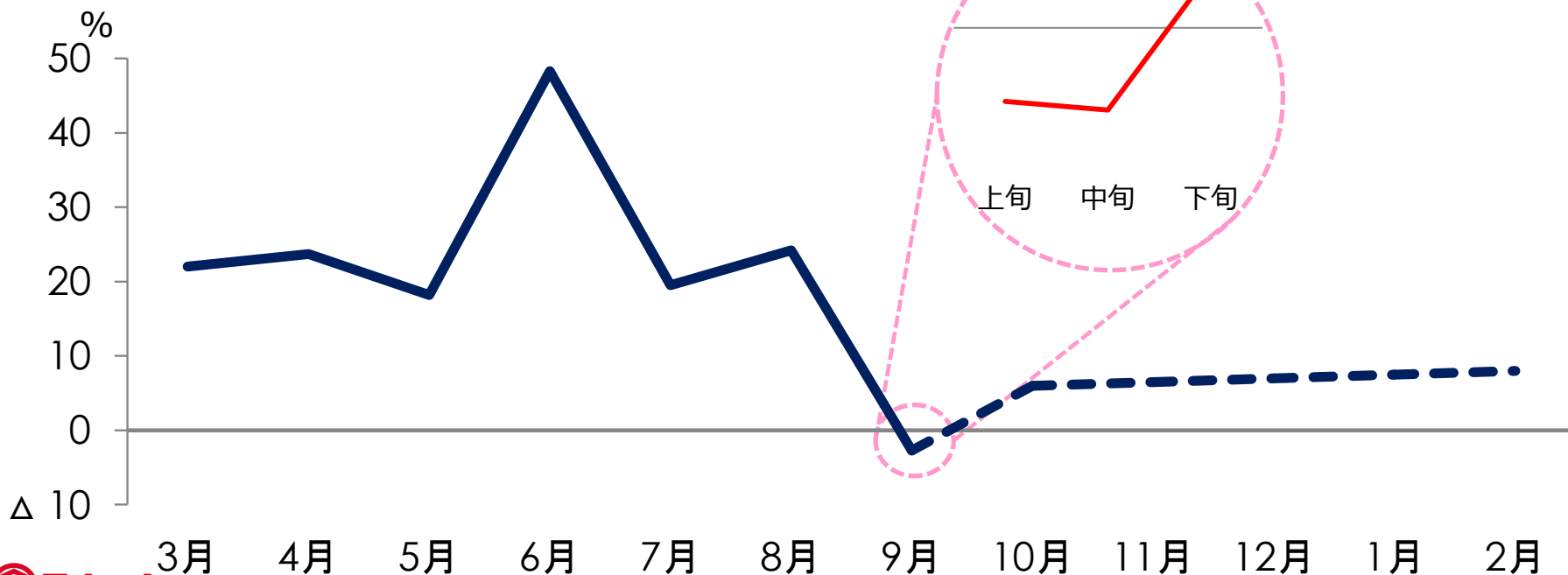
インバウンド

2018年度上期実績 283億円※ 前年比+25.2%

2018年度目標 560億円※ 同+15% ※国内百貨店売上

- ✓ 9月、関西の台風影響は関東店舗でカバー、影響は回復傾向
- ✓ 決済の簡便化、SNS配信強化など、計画達成に向け施策完遂

<インバウンド売上前年比推移・見通し>



グループ変革プロジェクト

グループ経営の仕組みを抜本的に見直し

業務変革により経営効率を高め、創出した利益を成長戦略に再投資

業務変革

ワークスタイル改革
グループ共通コスト改革
経理・システム刷新

再投資

顧客体験変革

顧客視点での購買
体験・価値の追求
次世代への進化

システム基盤再構築

グループ変革プロジェクト

2022年度に31億円の利益貢献

システム改修等スケジュールは概ね計画通り進行



単位: 億円

※各年2017年度比較数値
※採用抑制による人件費削減効果は除く

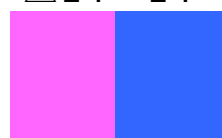
2018年度

投資費用	△14億円
削減効果	14億円
内訳 経費可視化効果	10億円
光熱費	3億円

利益貢献額 **±0 億円**

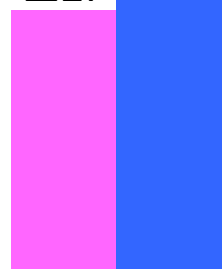
※期初には△4億円の影響を想定

△14 14



2018

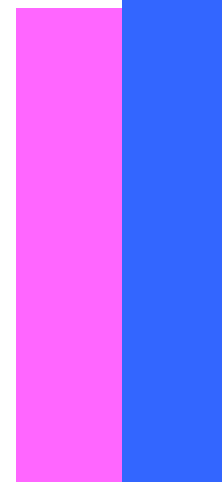
△27



2019

2年間累計
9億円

△50



2022

5年間累計
31億円

グループ変革プロジェクト

グループ共通コスト改革

経費可視化・適正化の取り組み、IT運用コスト削減を推進

		18年度削減額（億円）		
		上期	下期	通期
経費可視化	○PDCAサイクルによる適正管理手法導入	-	9.9	9.9
電力	○電力使用量削減ソリューション導入 ○電力単価低減・LED化推進	1.3	1.8	3.1
消耗品	○一般用度品の他社購買プラットフォーム活用	0.0	0.2	0.2
作業費	○店舗清掃の仕様見直し ○従業員出入口/巡回警備効率化（仕様見直し、機械化）	0.0	0.2	0.2
IT運用	○IT運用コストの圧縮	0.4	0.5	0.9
経費可視化+コスト削減：合計		1.7	12.6	14.3


CSR経営

SDGsを事業活動に取り込み、環境・社会活動を推進

- ✓ 脱炭素社会の実現をめざす「気候変動イニシアティブ」に参加
- ✓ 廃棄プラスチックによる海洋汚染問題をはじめ環境課題への対応
- ✓ 地域社会との共生をめざすまちづくり戦略の推進
- ✓ 雇用、性別に関わらない働きがいのある環境づくり

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



- 
1. 2019年2月期第2四半期業績
(2018年度)
 2. 高島屋グループ成長戦略と進捗
 3. **2019年2月期計画**
(2018年度)

連結計画

- 営業収益は、国内百貨店と空港型免税店の好調やサイアム高島屋の開業効果等により増収・上方修正
- 営業利益・経常利益・純利益は、将来の成長に向けた先行投資等により減益見込みも、営業収益の上方修正により計画を修正

(単位：億円)

	通期業績	前年比		計画比*	
営業収益	9,270	+ 192	+2.1%	+ 80	+0.9%
販売管理費	2,576	+ 116	+4.7%	+ 8	+0.3%
営業利益	310	△43	△12.2%	+ 10	+3.3%
経常利益	350	△36	△9.3%	+ 15	+4.5%
純利益	205	△32	△13.4%	+ 20	+10.8%

*計画比は2018年4月9日公表値との比較

国内百貨店計画

- 営業収益は、インバウンド好調と国内消費堅調継続により上方修正
- 営業利益は、先行投資・変動費増により減益も計画修正
- 経常利益・純利益は、連結子会社配当等により、増益・計画修正

(単位：億円)	通期業績	前年比	計画比*
営業収益	7,885	+ 99 +1.3%	+ 66 +0.8%
売上高	7,745	+ 95 +1.2%	+ 68 +0.9%
商品利益率	24.05%	△ 0.01	+0.06
販売管理費	1,888	+ 47 +2.6%	+ 5 +0.2%
営業利益	114	△22 △16.0%	+ 14 +14.2%
経常利益	237	+ 78 +48.7%	+ 22 +10.2%
純利益	173	+ 82 +91.1%	+ 27 +18.4%

*計画比は2018年4月9日公表値との比較

国内百貨店販売管理費計画

- 人件費は子会社人員吸収などによる負担増も計画良化
- 宣伝費・総務費・庶務費は先行投資に加え、日本橋高島屋S.C.開業費用・増収に伴う変動費増等により前年比増・計画修正
- 経理費は新宿店底地取得による支払家賃減により前年比減

(単位：億円)	通期業績	前年比		計画比*	
人件費	628	+ 10	+1.6%	△ 10	△1.6%
宣伝費	262	+ 5	+2.1%	+ 1	+0.5%
総務費・庶務費	697	+ 34	+5.2%	+ 13	+1.9%
経理費	300	△ 2	△0.7%	+ 0	+0.0%
合計	1,888	+ 47	+2.6%	+ 5	+0.2%

主要子会社計画（国内）

- 東神開発は、新規開業もマンション販売収入反動により、減収減益
- 高島屋クレジットは、日本橋高島屋S.C.開業を機とした販売促進・外部利用促進など営業施策を進め、増収増益
- 高島屋スペースクリエイツは、営業強化に努めるも、競合状況が厳しく利益率低下により、増収減益

(単位：億円)	営業収益	前年比	計画比*	営業利益	前年比	計画比*
東 神 開 発	455	△68 △13.1%	+ 1 +0.2%	80	△11 △12.1%	+ 0 +0.1%
高 島 屋 ク レ ジ ャ ッ ト	193	+ 8 +4.5%	+ 2 +1.0%	48	+ 2 +4.9%	+ 1 +1.3%
高 島 屋 ス ペ ー ス ク リ エ イ ツ (高島屋スペースクリエイツ東北含む)	318	+ 19 +6.4%	△3 △1.1%	11	△1 △11.2%	△4 △25.5%

*計画比は2018年4月9日公表値との比較

主要子会社計画（海外）

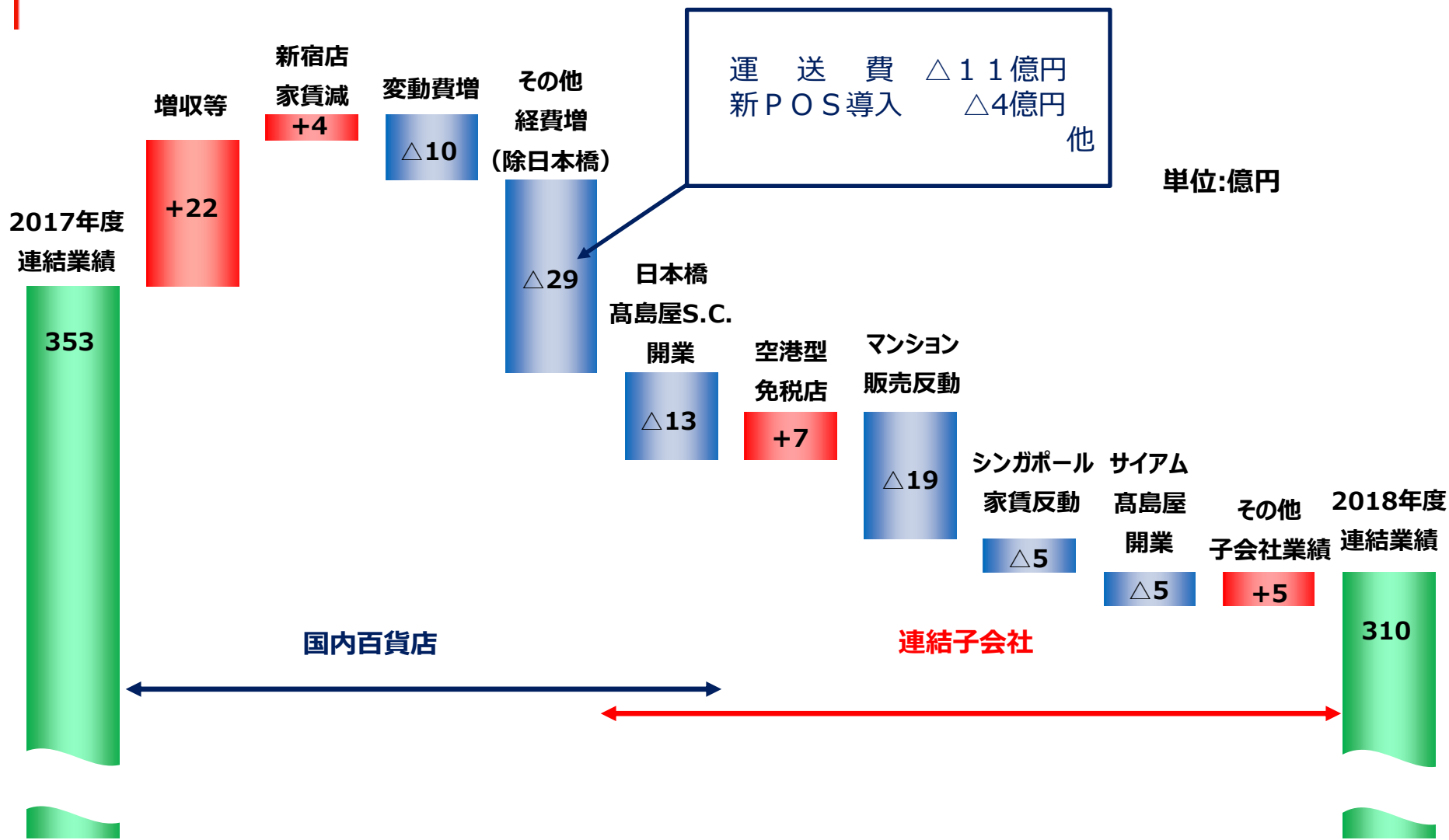
- シンガポール事業は、増収も過年度家賃の経理処理反動により、増収減益
- 上海高島屋・タカシマヤベトナムは、上期に続いて業績改善が継続

(単位：億円)	営業収益	前年比	計画比*	営業利益	前年比	計画比*
タカシマヤ シンガポール (現地通貨ベース)	186 228百万	+ 12 +6.7%	+ 5 +2.7%	33 40百万	△3.7 △10.2%	+ 0.1 +0.4%
トーシンディベロップメント シンガポール (TDS) (現地通貨ベース)	90 111百万	+ 1 +1.0%	△0 △0.2%	23 29百万	△1.4 △5.8%	+ 0.0 +0.0%
総売上	106	+ 8	△5			
上海高島屋 (現地通貨ベース)	36 213百万	+ 5 +14.7%	△0 △0.2%	△ 8 △49百万	+ 3.2 -	+ 0.2 -
タカシマヤ ベトナム (現地通貨ベース)	17 3,698億	+ 2 +16.1%	+ 2 +10.1%	△ 2 △396億	+ 1.0 -	+ 0.8 -

為替レート：1SGD=81.54JPY 1CNY=17.00JPY 1VND=0.0047JPY

総売上：上海高島屋とテナント売上の合計 *計画比は2018年4月9日公表値との比較²⁷

連結営業利益計画増減要因



資本政策

基本的考え方

財務健全性と資本効率を両立させるべく、
将来成長に向けた投資と株主還元とのバランス重視

2022年度目標

財務健全性： 自己資本比率 47.5%

資本効率： R O E 7%以上

株主還元

安定的な配当水準の維持を基本に、
諸環境を勘案し、最適な株主還元を実施

当連結会計期間より、国際財務報告基準に準拠した財務諸表を連結している在外連結子会社の消化仕入取引について、売上総利益相当額を「売上高」に計上する純額表示に変更しており、前年比においては、遡及的適用後の数値で比較しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。